

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

Table with 4 rows: 事業所番号 (0171000417), 法人名 (社会福祉法人 すばる), 事業所名 (グループホームひだまり(ユニットA)), 所在地 (江別市大麻北町608番地の3), 自己評価作成日 (平成25年6月24日), 評価結果市町村受理日 (平成25年10月8日)

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

* 利用者の皆様、個々の心身状況に配慮しながら、ホームでの生活が穏やかで楽しみのある場となる様支援し、ご家族にとっては実家のように感じて頂ける様に、来訪しやすい雰囲気づくりにこれからも努めていきます。
* 多彩な地域のボランティアの皆様のご協力に支えられながら、利用者の皆様の心身状況に合わせ、楽しい交流機会を保つよう努めています。

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度の公表センターページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL http://www.kaigokensaku.jp/01/index.php?action_kouhyou_detail_2012_022_kani=true&JigyosyoCd=0171000417-00&PrefCd=01&VersionCd=022

【評価機関概要(評価機関記入)】

Table with 3 rows: 評価機関名 (社会福祉法人北海道社会福祉協議会), 所在地 (〒060-0002 札幌市中央区北2条西7丁目1番地), 訪問調査日 (平成25年7月25日)

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

当事業所は、広い敷地内に医療機関、医療法人、社会福祉法人を一体的に運営している法人を母体とし、法人内の最初のグループホームとして10年前に開設された。老人保健施設、特別養護老人ホームの全面的なバックアップと24時間を通して医療機関の協力が得られる体制は、利用者、家族の安心に繋がっている。事業所は母体法人の強力な支援を得ながら、地域密着型事業所としての独自性を踏まえつつ利用者一人ひとりのその人らしい暮らしの支援に取り組んでいる。管理者は開設10年を機に、事業所がこれまで培った様々な経験を活かしながら今一度原点に立ち返り、職員のスキルアップに繋げたい意向である。現在様々なボランティアや小・中学校の体験学習を受け入れており、日常的に来訪者は多い。今後より一層、利用者家族や地域住民との協力関係を進め、利用者の安心安全に向けた取り組みを考慮中である。開設当初から入居している利用者もあり、一人ひとりが穏やかに過ごしている。事業所の機能と役割を活かし、地域の核となる取り組みが期待できる。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目№1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

Large table with 4 columns: 項目, 取り組みの成果 (該当するものに○印), 項目, 取り組みの成果 (該当するものに○印). Rows 56-62 contain evaluation data for various service aspects.

自己評価及び外部評価結果

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I.理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	管理者、職員は日々の申し送り等で理念を共有すると共に運営方針や具体的目標を確認し合い、日々の業務に取り組んでいる。	開設時から「笑顔のある暮らしを家族と一緒に作り上げていく」ことを盛り込んだ事業所独自の理念を掲げ、ケアの目標としている。管理者と職員はカンファレンス等で理念の共有に努めている。	理念は事業所が目指すサービスの在り方を示しケアの基本となる考え方であり、日々振り返りながらケアに繋げていくことが望まれる。管理者と職員は理念を共有し意識づけをするために、日常的に話し合い実践に活かすよう期待したい。
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	住み慣れた地域での安心した暮らしを支える為、地域の理美容室や近隣のお店を利用すると共に、運営推進会議等で地域の情報を提供して頂き、行事に参加する等、交流に努めている。	事業所や法人で行われる行事への地域住民参加をはじめ、大正琴や民謡、折り紙、フェルト教室など様々なボランティアが日常的に訪れている。小・中学生の体験学習を受け入れたり、高校の学校祭に利用者とかけるなど積極的に相互交流を進めている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	電話での問い合わせや施設見学時に認知症や福祉制度の説明等に努めている。 市内グループホーム事業所と共同で市民向けの認知症講座を毎年1回程度開催している。		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議は2カ月に1度地域包括支援センター職員、地域住民、家族、グループホーム職員等参加のもと開催され記録している。運営や行事内容、ボランティア活動や評価結果の報告がなされ、意見交換された内容は改善等に反映させている。	利用者家族、地域住民代表、ボランティア代表、地域包括職員の参加を得て、2ヶ月毎に運営推進会議を開催している。運営状況や利用者の暮らしぶり、行事報告などが話し合われ、意見を運営に反映するよう取り組んでいる。	運営推進会議は、地域の理解や様々な意見を得やすい貴重な機会である。会議の開催日や在り方も工夫し、全家族への呼びかけや民生委員、消防団員等幅広い参加を促し、より一層意見の活性化を図り運営に活かせるよう期待したい。また、具体的に記録した議事録を家族に提示し、家族の理解へ繋げる工夫も期待したい。
5	4	○市町村との連携 市町村担当者とは日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	市の担当者とは相談や情報交換を行い、市との連携を密に行っている。運営推進会議録の報告等で事業所の実情やケアの取り組み等を報告し、助言を受けている	定期的な状況報告をはじめ、様々な機会に市担当者とは情報交換を行い、アドバイスや指導を得ている。特に地域包括支援センターの地区担当者とは日常的に連絡し合い協働を図っている。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	日中玄関の施錠は行わず、外周りの状況が把握できる内玄関入り口の小さなベルやセンサーにて利用者の動きに配慮しながら安全で自由なケアに取り組んでいる。	職員は法人内の自立支援・抑制廃止委員会の研修に参加し、全職員が身体拘束の弊害を認識している。玄関は夜間のみ施錠し、日中は見守り支援に努めている。管理者は、日々のケアの中で不適切な行為はないか職員同士がより細かく確認し合い、身体拘束のないケアに取り組む意向である。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	関連する研修会に参加し、その内容を勉強会等で他職員に伝達している。また同時に認知症の理解を深め、職員個々の業務でのストレスが軽減出来るようミーティング等で話合う等している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	認知症を抱えている状況を理解した上で、関連する研修会に参加し、その内容を勉強会等で他職員に伝達している。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	事前訪問時に契約書を持参し説明等を行っている。即日締結はせず、内容をよく確認し、理解や納得をしてから記名捺印をして、入居時に持参してもらうようにしている。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	面会や家族参加の行事の他、日常的にも家族と意見交換が出来るように配慮している。苦情窓口機能の明示もしており、家族の意見が運営に反映するように行っている。	日常的な来訪や行事に合わせて来訪する家族が多い。その機会に要望や意見を聞くよう努めている。来訪が少ない家族には、電話で利用者の暮らしぶりや体調の変化を伝え、希望を聞くよう心掛けている。	
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月1回の全体会議、フロアミーティング、毎日の申し送り時に意見交換を行い、都度検討し改善等を行っている。	ユニット毎のフロアミーティングや月1回の全体会議の場で、職員の意見やアイデアを聞いている。ケアの中での課題は都度話し合い、運営に活かすよう努めている。事案によっては法人全体の会議に繋げ、運営に反映するよう取り組んでいる。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	年2回、職員と面談し評価を行っている。そこで出された疑問や要望等は、内部で検討するほか、必要等に応じて法人総務等に伝え改善を求めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人内の各種委員会研修に可能な限り参加できるように配慮している。外部研修についても参加できるように努めている。勉強会やミーティング時に研修報告を行い内容の伝達にも努めている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	江別市内の同業者が集まる会が月1回定期的に開かれており、法人会議室の開放や議事録の作成等、積極的に協力している。(あおいの会)職員や利用者の交流会にも必ず参加している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入所前の事前訪問等で、本人・家族や関係機関から状況等を聞き、職員間で対応を検討してから受け入れをしている。そこから得た情報等を糸口に信頼関係を深めていくよう努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	同上。 入所直後は特に密に本人の様子を家族に伝えたり、家族の話の話を聞いたりして関係づくりに努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	同上。 ボランティアによる趣味活動への参加を促す等に努めている。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	本人の話を傾聴したり行動を支援したりしながら、その陰に隠された真意を汲み取り共感し合えるよう心掛けている。一緒に出来る家事等には必ず誘うようにしている。		
19		○本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族が気軽に訪問でき、訪問時には居心地よく過ごせるような雰囲気づくりに努めている。 ご面会が難しい場合は電話フォローを行い、本人の近況や家族への思いを伝え、家族の絆が深まるように配慮している。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	職員は利用者個々の思いや意向を本人・家族を通して十分把握し柔軟に対応している。	利用者一人ひとりの馴染みの理・美容室を利用したり、近隣のスーパーに出かけるなどそれまでの暮らしを大切に支援している。利用者の高齢化とともに、外出の機会は少なくなってきているが、家族の協力を得ながら孫の演奏会を楽しむなど繋がりを大切に支援をしている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者が同士の関わり合い、支え合えるような支援に努めている	居間や居室で会話等が楽しめるよう、また誤解や妄想による衝突を避ける為、職員が都度状況を把握し、必要に応じて介入する等の配慮をしている。 引きこもりがちな利用者にも参加しやすい場面を設定し、声かけ等を行い交流が図られるよう努めている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価		外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容	
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退所後も家族や関係機関からの問い合わせ等には丁寧に対応している。			
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント						
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	職員は利用者個々の思いや意向を本人・家族を通して十分把握している。把握困難な場合は関係者間で情報交換し本人の視点にたって検討している。	日々の関わりの中で利用者一人ひとりの表情やしぐさから思いを把握している。困難な場合は本人の生活歴や家族の話参考にしたり、職員の日々の気づきをカンファレンスで話し合い、思いに沿うよう検討している。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入所前の事前訪問等で、本人・家族や関係機関から情報を収集し、それを糸口にして更に理解を深めていくよう努めている。			
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	自立支援に取り組むためにも、折に触れ、本人の現状や出来ること、したいことを知るよう努めている。			
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人、家族の意見要望を取り入れ、ケアマネージャを中心にして職員全員で意見交換を行い、個々の心身状況、生活能力を把握し考慮したうえで介護計画を作成している。	3ヶ月ごとを目途に見直しを図っている。個別記録や業務日誌を基に家族の希望を盛り込み、担当職員から細かな情報を集約し、カンファレンスで確認し介護計画を作成している。変化時には実状に即した見直しをしている。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	業務日誌(日勤・夜勤)、個別記録、連絡ノート等を活用し情報の共有に努め、カンファレンスや毎日の申し送り等の時に検討している。			
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	法人本体や隣接する医療法人の有する機能を活用するほか、長年交流のあるボランティア、新しいボランティア等の協力を得ている。			
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	在宅時代に通っていた美容室の利用、なじみだった場所への外出等を家族の同意や協力を得ながら継続している。			
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	健康管理は法人クリニックの医師や看護師、グループホーム看護師により適切に行われている。利用者希望のかかりつけ医については、通院支援等を行い常に適切な医療を受けられるように配慮している。	日々の健康管理は、24時間対応の協力医療機関である法人内クリニックの連携の下行われている。他科やかかりつけ医を受診する際は家族の協力を得ながら職員が同行し、本人の身体状況を関係者で共有し適切な医療支援が行われている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価			外部評価		
			実施状況	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容		
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	異常等を見つけたときは都度、当事業所の看護師に報告し確認する。状況に応じて医師や家族に連絡し、適切な受診等が受けられるように努めている。					
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時には、隣接する医療法人の医師や当事業所の看護師が情報提供を必ず書面で行う、介護の情報も書面で届けている。					
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化や終末期の対応については家族や関係者と話合っている。医師、看護師、職員との連携が密に行われているが、設備面で重介護者への不安があり、特養や療養型に移動する例が多い。	重度化に向けた対応について入居時に利用者、家族に説明している。当事業所は、これまで看取り経験はなく、具体的な対応方針や段階的な話し合いまでには至っていない。管理者は利用者の高齢化とともに起こりうる状況を視野に入れ、具体的な対応方針の必要性を認識している。	当事業所は協力医や看護師と日常的に医療連携が可能な体制にあり、職員のケア意識も高い。近年、在宅での看取りの流れが示される中、職員の看取り研修を含め意識統一を図りながら事業所としての力量を見極め、家族や関係者と共に支援できる体制に期待したい。			
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	隣接する医療機関の協力を得て、事業所の看護師が中心となり、毎月の会議などで対応方法確認している。					
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回、消防署協力のもと昼間想定及び夜間想定での避難訓練を行っており、緊急時の連絡体制の確認もなされている。また、敷地内の医療法人はるにれとの協力体制をとっている。	消防署の協力の下、昼夜を想定した避難訓練を法人本部と共に年2回行っている。自然災害対策は今後の課題となっているが、有事には隣接する法人内施設との協力体制が可能となっている。現在、災害時の地域住民との協力体制の強化を考慮中である。	自然災害や大規模停電など予期せぬ事態を想定した災害を念頭に、事業所独自の災害対策も求められる。また、飲料水や食品、防寒具等の備蓄と避難場所の家族への事前周知も図り、利用者・家族の安心に繋げる取り組みも順次検討されることを望みたい。			
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援								
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	対応や言動は個々の状況に応じながらも尊厳を損なわないように配慮している。個人情報保護法に沿った利用者への対応を図り書類管理等には細心の注意を払っている。	利用者一人ひとりのプライバシーやプライドを大切に、その人にあった声掛けやトーンに気を付け、人格を損なわない支援に努めている。				
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	本人が混乱しないように配慮しながら、選択できる機会を多く持つよう努めている。認知症状についての理解を深め、意思決定を待つ姿勢の大切さも、勉強会・ミーティング等で話し合われている。					
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	言動や状況の中から一人ひとりの意向をくみとり、体調等に配慮しながら個性・柔軟性のある対応が出来るように努めている。					
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	本人が納得して、気温や場に応じた身だしなみ等が出来るよう対応に配慮している。					

自己評価	外部評価	項目	自己評価		外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容	
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	機会はかなり少なくなっているが、衛生管理や利用者の個別の状況に留意し、食事の準備や、片付けを職員と共に進めている。食事は何名かの職員が共に食卓を囲み楽しみの場となるよう努めている。	法人内の管理栄養士の献立を基に、事業所で調理している。品目も多くバランスのとれた献立で完食する利用者が多い。利用者の誕生日や行事には事業所独自のメニューに変更し、楽しい食事となっている。職員や利用者同士の会話ははずみ、笑い声の中で食事を楽しんでいる。利用者の力量に合わせた後片付けや掃除など、役割を持って過ごしている。		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	摂取量は各チェック表で毎日確認している。嗜好等に応じた献立の個別変更、とろみ剤や食器の形の工夫で本人の力で安全に摂取できるように工夫している。			
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後一人ひとりの口腔ケアの状態を確認し、必要に応じて本人の自尊心が傷つけないように配慮しながら仕上げ磨きをするように心がけている。			
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	必要に応じてチェック表を使用する。ミーティング等で一人ひとりの方の排泄の状態を話し合い確認し、排泄用品の検討を行い出来るだけ本人の力を生かせるように努めている。	個々の排泄の傾向を見極め記録しながら職員間で話し合い、確認して支援している。夜間のみポータブルトイレを使用したり、衛生用品も利用者の状況に合わせて変えるなど、きめ細かな支援に努めている。日中は自立している利用者が多い。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	事業所の看護師が中心となり、個々に応じた飲食物の工夫、運動、服薬等による排便調整に取り組んでいる。			
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	ホームとしての大きな決まりはあるが、本人の希望やペースに合わせて行っている。個々の希望するシャンプー等の使用や、職員と会話を楽める時間になるように努めている。	週2回を目途に入浴支援をしている。中には入浴を拒む利用者もいるが無理強いせず、時間や日にちを変えて勧めるなど本人の気持ちに沿って支援している。		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	一人ひとりの身体・活動の状況、生活習慣を把握するように努め、適度に休息したり、安心して気持ちよく眠れるように支援している。			
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	事業所の看護師が都度、口頭や連絡ノート、カンファレンス資料等で周知に努めている。服薬マニュアルは、折にふれ全員で確認している。			
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	家事（茶碗洗い・モップ掛け掃除・調理下ごしらえ）、趣味活動（手芸・民謡・カラオケ）、軽作業（草むしり・鉢物の世話・布切り・縫物）等を個々の状況に応じて行えるように準備し働きかけている。			

自己評価	外部評価	項目	自己評価		外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容	
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	春先から秋にかけて職員と共に散歩や買い物に出掛け、冬期は隣接の特養施設の売店や喫茶コーナーに出掛ける等家族等と相談し、一人ひとりの希望・状況に合った外出支援が行われている。	近隣のスーパーへ出かけたり、事業所周辺を散歩したり、隣接する特養の喫茶コーナーで地域住民と交流するなど日常的に外気に触れる機会を多く支援している。時には桜見物や市内の牧場までドライブすることもある。家族と共に外出する機会もあり、変化のある暮らしを支援している。		
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	買い物外出の他、本人の能力に合わせた状態のお金を用意し、出来るだけお金を所持したり使えるように支援している。			
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	本人や家族の希望や了承を得て支援している。携帯電話を持参されている方もいる。母の日等遠方の家族から送り物があつた際は、状況に合わせて出来るだけ電話で声を確認できるように努めている。			
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	居間の窓からは四季折々の景色を見渡す事が出来る。共有空間は広く利用者の安全を考慮した造りになっており、温湿度換気等も適切に保たれるように配慮している。建物両サイドのフリースペースも利用者の状況に合わせて、談笑の場・テレビ観賞の場・観葉植物の配置等居心地良く過ごせるように工夫し使用している。	廊下を挟んで居室を設け、中央付近に台所と居間兼食堂が連なる造りとなっている。居間や廊下に利用者の手作り作品や季節を感じる装飾品が調和よく飾られている。窓からは麦畑やトウモロコシ畑が見渡せ、季節を感じながら暮らしている。事業所内部は清潔感があり不快な音や臭いもなく、利用者が思い思いの場所で過ごせる休憩スペースもあり穏やかに過ごせるよう工夫されている。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	主居間の他に副居間が2か所あり、ソファー等を用意し談笑したり、読書したり、休んだり出来るように工夫している。傾聴ボランティアの方との交流スペースに活用している。			
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	使い慣れた家具が持ち込まれ、家族写真や仏壇等が一人ひとりの好み等に合わせ設置されている。収納スペースも十分あり、日々の清掃も行き届き清潔が保持されており居心地よく過ごせるように工夫している。	居室が様々な間取り構成となっていることもあり、各居室がその人らしい雰囲気を作り上げている。室内には本人の使い慣れた家具や思い出深い調度品、仏壇が置かれ、それまでの生活の延長を感じられる工夫がされている。壁には家族写真や装飾が施され、家族に囲まれて穏やかに過ごしている様子が随所に見られる。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	利用者一人ひとりの状況に合わせ名札や使い慣れた家具等で自室が判りやすいように工夫している。また、家具等で動線を確保し出来るだけ安全に自立した生活が送れるように工夫している。			